

# 大学連携会議「学輪IIDA」の趣旨とこれまでの歩み

## 【学輪IIDAの趣旨】

大学連携会議「学輪IIDA」は、飯田に価値や関心を有する大学研究者のネットワーク組織です。

飯田と大学との1対1の関係から、飯田を起点に様々な大学研究者が相互につながる有機的なネットワークを形成するため、平成23年1月に設立されました。

学輪IIDAのコンセプトは、「21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり」です。大学研究者同士が相互に知り合い親睦を深めながら、モデル的な研究や取組を地域とともに行っていこうとする試みです。大学研究者の有機的なネットワークの形成を通じて、大学の専門的な知見や人材を地域に呼び込み、これまで飯田が培ってきた経験や取組と融合することで、地域の課題解決や付加価値を高めていくような新しい形の大学的な機能の構築を追求していく挑戦でもあります。

学輪IIDAは、役職や規約などの無い緩やかな（平らな）ネットワーク組織です。共通のキーワードは「飯田」であり、大学研究者による「ボトムアップ」で「ボランティア」な活動を基本としています。設立以来、これまでの様々な活動を通じて、当初19大学43名だった大学研究者も、現在（平成28年12月）は38大学92名の大学研究者が参画するまでに至り、ネットワークの輪が広がってきています。

学輪IIDAの知のネットワークを通じて、「地域(内部)の知」と「大学(外部)の知」が融合する「共創の場」を創出し、持続可能性を追求する地域として、様々なモデル的な取組を多様な主体の連携と協働のもと進めていきます。

## 【学輪IIDAのこれまでの主な取組】

### 1 大学連携会議「学輪IIDA」の設立

(平成23年1月29日～30日)

飯田市と関係の深い大学研究者が一堂に会し、今後の方策等について検討するため「大学連携会議」を開催。会議の名称を「学輪IIDA」とし、様々な提案、課題等の中から、現実的なもの、実施可能なものを抽出し、具体的な行動を起こしていくため「プロジェクト会議」を設置していくことを確認する。

### 2 大学連携会議「学輪IIDA」全体会

学輪IIDA全体会は、年に一度学輪IIDAメンバーが飯田に会し、大学連携や学輪IIDAの取組に関する情報の共有、学輪IIDAの今後のあり方や具体的な取組に関する検討、及び学輪IIDAの取組を市民など多くの方に知っていただくことなどを目的に開催するもの。例年1月末の週末に開

催しており、誰でも参加可能な「公開セッション」と、学輪IIDAメンバーによる「内部討議」を開催している。

○平成23年度学輪IIDA全体会（平成24年1月28日～29日）

学輪IIDA全体会「公開セッション」を初めて開催する。参加研究者による自身の専門領域や飯田との関わり、関心事項などに関するプレゼンテーションを行う。

「内部討議」では、学輪IIDAプロジェクト会議やウェブサイトの構築など、今後の取組に関し検討する。2日間で、17大学31名のメンバーが参加。

○平成24年度学輪IIDA全体会（平成25年1月26～27日）

「公開セッション」では、大学の実践事例報告会、学輪IIDAプロジェクト会議の活動報告、及び地域と大学との連携による地域づくりの可能性をテーマにしたパネルディスカッションを開催する。

[大学の実践事例報告会]

①豊橋技術科学大学シャレットワークショップ  
(豊橋技術科学大学：大貝 彰 教授)

②デジタルプラネタリウム共同プロジェクト  
(和歌山大学：尾久土 正巳 教授)

③参加型地域社会開発(PLSD)研修  
(日本福祉大学：大濱 裕 准教授)

[学輪IIDAプロジェクト会議報告]

①共通カリキュラム構築プロジェクト会議  
(立命館大学：平岡 和久 教授)

②旧飯田工業高校後利用プロジェクト会議  
(追手門学院大学：小畑 力人 教授)

[パネルディスカッション]

テーマ：地域と大学との連携による地域づくりの可能性について

コーディネーター：牧野 光朗（飯田市長）

パネリスト：東京農工大学農学研究院  
朝岡 幸彦 教授

飯田女子短期大学 高松 和子 教授

南信州・飯田フィールドスタディ講師 桑原 利彦 氏

「内部討議」では、学輪IIDAプロジェクト会議の今後の取組や、旧飯田工業高校後利用に関する将来展望及び具体的な整備などについて意見交換する。2日間で、18大学33名のメンバーが参加。

○平成25年度学輪IIDA全体会（平成26年1月25～26日）

・公開セッション

[大学の実践事例報告会]

①地域社会システム調査実習

(東京農工大学農学研究院：朝岡 幸彦 教授)

- ②法政大学西澤ゼミフィールドワークの取組  
(法政大学：西澤 栄一郎 教授)  
[学輪IIDAプロジェクト会議報告]
- ①共通カリキュラム構築プロジェクト会議  
(立命館大学：平岡 和久 教授)
- ②飯田における伝統工芸の活性化に向けた調査報告  
(京都外国語大学：高島 知佐子 講師)
- ③旧飯田工業高校後利用プロジェクト会議  
(追手門学院大学：小畑 力人 教授)
- ④知のネットワークを活用した人材育成に向けた取組  
(法政大学：高柳 俊男 教授)  
[パネルディスカッション]  
テーマ：「学びの場 飯田」の魅力や可能性について  
コーディネーター：牧野 光朗 (飯田市長)  
パネリスト：法政大学人間環境学部：石神 隆 教授  
豊橋技術科学大学建築・都市システム学系：大貝 彰 教授  
東京大学大学院教育研究科：牧野 篤 教授  
・内部討議では、各研究者の感じる飯田の価値・魅力・可能性に関する意見交換、学輪IIDAやプロジェクト会議の今後の取組、及び学輪IIDA紀要作成に向けた意見交換などを行う。2日間で、17大学32名のメンバーが参加。
- 平成26年度学輪IIDA全体会 (平成27年1月24～25日)  
・公開セッション  
[大学の実践事例報告会]
- ①法政大学国内スタディジャパン研修  
(法政大学：高柳 俊男 教授)
- ②グローバルシティ・飯田における多文化共生  
(上智大学：蘭 信三 教授・宮崎産業経営大学：福本 拓 准教授)  
[学輪IIDAプロジェクト会議報告]
- ①共通カリキュラム構築プロジェクト会議  
(和歌山大学：藤田 武弘 教授・立命館大学：平岡 和久 教授)  
[パネルディスカッション]  
テーマ：地方消滅時代における飯田下伊那  
ー右肩下がりの時代における持続可能な地域の実現のためにー  
コーディネーター：しんきん南信州地域研究所 林 郁夫 所長  
パネリスト：首都大学東京教養学部：大杉 覚 教授  
立命館大学政策科学部：森 裕之 教授  
京都大学大学院経済学研究科：諸富 徹 教授  
・内部討議では、旧飯田工業高校後利用に関する検討、学輪IIDAやプロジェクト会議の今後の取組、及び学輪IIDA機関誌作成に向けた意見交換などを行う。2日間で、21大学38名のメンバーが参加。

- 平成27年度学輪IIDA全体会 (平成28年1月23～24日)  
・公開セッション  
[大学の実践事例報告会]
- ①飯田水引プロジェクトの取組について  
(法政大学：酒井 理 准教授、ゼミ生)  
[学輪IIDAプロジェクト会議報告]
- ①共通カリキュラム構築プロジェクト会議  
(東洋大学：小林 正夫 教授)  
[パネルディスカッション]  
テーマ：「真の地方創生」の実現に向けた学輪IIDAの意義とこれからの可能性  
コーディネーター：法政大学人間環境学部 石神 隆 教授  
パネリスト：立命館大学政策科学部 平岡 和久 教授  
東京大学大学院工学系研究科：瀬田 史彦 准教授  
一般財団法人日本経済研究所：大西 達也 調査局長  
コメンテーター：牧野 光朗 (飯田市長)  
・内部討議では、旧飯田工業高校活用構想案に関する説明、学輪IIDAの活動を支える知の拠点のあり方、学輪IIDAの今後の取組に関する意見交換などを行う。2日間で、20大学32名のメンバーが参加。

- 3 学輪IIDAプロジェクト会議の設立 (平成23年3月23日)  
平成23年1月の大学連携会議において確認された提案、課題、意見等を踏まえ、今後実現可能な取組等について議論し、具体的な方向性を見出すことを目的に開催する。

学輪IIDAにプロジェクト会議を設置し、旧飯田工業高校の利活用、地域課題をテーマにした共同研究の実施、学輪IIDAウェブサイトの構築などに取り組んでいくことを確認する。

- (1) 旧飯田工業高校後利用プロジェクト会議の設立  
(平成23年9月12日)

旧飯田工業高校の「教育施設としての活用可能性」について、様々な角度から検討することを目的に設置。南信州・飯田フィールドスタディなど現在の大学連携の取組からの積み上げと、リニア時代を意識した大学的な機能の2つの視点で検討していくことを確認する。

プロジェクト会議の詳細は、学輪IIDA機関誌「学輪」創刊号における「飯田工業高校後利用プロジェクト報告」(追手門学院大学社会学部：小畑力人教授)を参照。

旧飯田工業高校後利用プロジェクト会議の主な取組(歩み)は、以下のとおりである。

(平成23年度)

プロジェクト会議を設立するとともに、大学院大学の設置可能性検討に向け、岐阜情報科学芸術大学院大学を視察

する。また、プロジェクト会議の趣旨や検討状況について、学輪IIDA全体会公開セッションで報告するとともに、内部討議にて今後の取組について意見交換する。

(平成24年度)

旧飯田工業高校の教育的な施設の活用の可能性について検討する。旧飯田工業高校の後利用検討に向けては、「飯田で何を学ぶのか」といった理念やコンセプトの検討が重要であること、その理念やコンセプトを実現に向け教育目的の達成に必要なカリキュラムの構築が必要であること、及びその教育を実践するために必要な施設の有効な活用について検討することが重要であることが確認される。

また、リニアを活かした大学的な機能の視点として、共同教育課程、連合大学院、大学院大学の設置可能性などについて調査、研究していくことを確認する。

(平成25年度)

旧飯田工業高校施設が、目指すべき地域像の実現に向けた地域振興や人材育成の拠点となることが重要であるとの認識のもと、その役割を担うことができる教育・研究施設(機関)としての活用可能性について検討する。

旧飯田工業高校を活用した教育・研究施設(機関)には、新しい価値を創発していく機能(価値創発機能)や新しい形の大学機能が必要であるとの認識のもと、様々な人材、知識、経験、情報等が交差する「ナレッジ・スクエア」構想と、その活動に必要とされる施設のあり方について整理する。また、ナレッジ・スクエアとしての活用や実践を経て、将来的な高等教育機関(大学院大学)やコンベンション施設の設置可能性に関する検討の必要性を確認する。

(平成26年度)

旧飯田工業高校を活用したナレッジ・スクエア構想について引き続き検討する。また、飯田市が実施した「大学院大学設置可能性調査事業」の一環で開催した「南信州における高等教育機関のあり方について考える」シンポジウムにおいて、旧飯田工業高校を研究教育施設として活用する具体案としてナレッジ・スクエア構想と大学院大学の設置可能性について発信する。

(平成27年度)

旧学校施設を活用した類似施設の調査として、「三鷹ネットワーク大学」と「IID世田谷ものづくり学校」の視察を行い、地域との親和性、学校施設を使用することの意義、及び施設運営には多様な主体の積極的な関わりが重要であること等を確認する。

また、学輪IIDA全体会内部討議にて、南信州広域連合を中心に検討してきた旧飯田工業高校利活用構想案「産業振興と地域振興に寄与する学術研究の知の拠点整備構想案」の考え方と、プロジェクト会議にて導き出した「ナレッジ・スクエア構想」の考え方の親和性を確認するとともに、これまでのプロジェクト会議を引き継ぎ、知の拠点形成に向

け検討するプロジェクト会議を設置することを確認する。

## (2) 知の拠点プロジェクト会議の設立

(第1回プロジェクト会議：平成28年3月5日・第2回プロジェクト会議：平成28年10月8日)

旧飯田工業高校施設を活用した知の拠点の形成に向け、学輪IIDAの有志メンバーによる「知の拠点プロジェクト会議」を設立する。

第1回プロジェクト会議では、知の拠点の全体像、知の拠点の機能を高める「共創の場」、地域振興の知の拠点や大学サテライト・研究室のあり方などを中心に意見交換する。

またプロジェクト会議として、知の拠点の目指す姿やその実現に向け、引き続き情報等共有しながら検討を進めていくこと、リニア時代を見据えこの地域にどのような知の拠点が必要であり、そこで如何にして魅力を形成し人財を引き寄せる磁力を形成し発信していくかなど、本質的な議論を進めていくことを確認する。

第2回プロジェクト会議では、第1回プロジェクト会議以降の旧飯田工業高校施設の利活用に関する検討経過や、施設所有者である県の方針決定及び南信州広域連合の方針内容について説明するとともに、知の拠点の重要な機能を担う共創の場のあり方等について意見交換する。

## (3) 共通カリキュラム構築プロジェクト会議の設立

(平成23年10月4日)

飯田に関わってきた大学研究者が有する飯田の価値を集約し、共有化した「モデルカリキュラム」の作成と実践を通じて、飯田を起点とした複数大学による新たな連携モデルを構築することを目的にプロジェクト会議を設置。共通カリキュラムの基本的な考え方や今後の取組について検討、確認する。

共通カリキュラム構築プロジェクト会議の詳細については、学輪IIDA機関誌「学輪」創刊号における「学輪IIDA共通カリキュラム構築プロジェクトの到達点と課題」(立命館大学 平岡和久教授)を参照。

共通カリキュラム構築プロジェクト会議の主な取組(歩み)は以下のとおりである。

(平成23年度)

・プロジェクトメンバーによるシラバス案の作成と学習会  
プロジェクトメンバーが有している飯田の価値、関心事項を取り入れたシラバス案を作成。12月11日～12日にプロジェクト会議を開催し、各教員が作成したシラバス案の確認や学習会を開催する。

今後、シラバス案を元にしたモデルカリキュラムの作成と実践を、複数大学が連携しながら取り組んでいく方向性を確認する。

(平成24年度)

・南信州ソーシャルキャピタル・フィールドスタディの実施

立命館大学、名城大学、和歌山大学、しんきん南信州地域研究所及び市が連携し、大学の専門性と飯田でのフィールドスタディを組み合わせたモデルカリキュラム作成と実践に向け取り組む。地域の持続可能性に関する要素、要因を明確化するため、飯田のソーシャルキャピタル（社会関係資本）を可視化し、持続可能な地域づくりとの関係について検証する「ソーシャルキャピタル・フィールドスタディ」を、総務省の「域学連携」地域づくり実証研究事業の受託事業として実施する。3大学29名の大学研究者や学生に参加いただく。詳細は、学輪IIDA機関誌「学輪」創刊号における「ソーシャルキャピタルを南信州・飯田で学ぶ」（名城大学 福島茂教授）を参照。

（平成25年度）

・地域環境政策フィールドスタディの実施

立命館大学、名城大学、立命館アジア太平洋大学及び市の連携のもと、飯田における環境モデル都市の取組や多様な主体の実施体制を学ぶカリキュラムとして「地域環境政策フィールドスタディ」を実施する。3大学28名の大学研究者と学生に参加いただく。詳細は、学輪IIDA機関誌「学輪」創刊号における「環境をテーマにしたモデルカリキュラムの作成と実践」（立命館アジア太平洋大学 銭学鵬准教授）を参照。

（平成26年度）

・南信州飯田ニューツーリズムフィールドスタディの実施

立命館大学、名城大学、和歌山大学、東洋大学及び市の連携のもと、農山村再生に資するツーリズムの新たな可能性を探るカリキュラムとして「ニューツーリズムフィールドスタディ」を実施する。4大学37名の大学研究者と学生に参加いただく。詳細は、学輪IIDA機関誌「学輪」第2号における「南信州・飯田ニューツーリズムフィールドスタディ（共通カリキュラム構築プロジェクト）の成果と課題」（和歌山大学 藤田武弘教授）を参照。

（平成27年度）

・南信州ソーシャルキャピタル・フィールドスタディの実施

立命館大学・名城大学・和歌山大学・東洋大学及び市の連携のもと、飯田における社会関係資本の重層的蓄積を学ぶカリキュラムとして「ソーシャルキャピタル・フィールドスタディ」を実施する。4大学41名の大学研究者と学生に参加いただく。詳細は、学輪IIDA機関誌「学輪」第3号における「ソーシャルキャピタル・フィールドスタディ2015」（東洋大学社会学部 小林正夫教授）を参照。

（平成28年度）

・地域経営論フィールドスタディの実施

立命館大学・名城大学・和歌山大学・東洋大学及び市の連携のもと、地域経営の概念、地域経営の現状、成果や課題、持続可能な地域の実現に向けた地域経営のあり方など

を学ぶカリキュラムとして、「地域経営論フィールドスタディ」を実施する。5大学50名の大学研究者と学生に参加いただく。

4 学輪IIDAウェブサイトの開設（平成24年6月）

飯田市や学輪IIDAに参加いただいている大学・研究者間の情報共有や、学輪IIDAの取組に関する情報発信を目的に、学輪IIDAウェブサイトを開設する。

ウェブサイトのURL <http://gakurin-iida.jpn.org/>

5 学輪IIDA機関誌「学輪」の発刊

学輪IIDAの取組や、大学研究者などの飯田における教育・研究活動の実績を蓄積するとともに、より多くの方に知っていただくことを目的に、平成26年度より学輪IIDAの機関誌「学輪」を毎年1回発刊する。

6 大学等の受入状況について

南信州・飯田フィールドスタディなどを通じて、当市に教育・研究・調査等で訪れた大学研究者や学生数

年 度	大学数	参加者数
平成20年度	14	176
平成21年度	15	120
平成22年度	16	299
平成23年度	17	422
平成24年度	16	558
平成25年度	27	759
平成26年度	24	956
平成27年度	30	768
合 計	129	3,290

※参加数は延べ人数